

小塩山カタクリ観察会

2014.04.11

場所: 京都市西京区小塩山

天気: 晴れ



JR高槻駅からバスで中畑回転場



ヒメオドリコソウ



セイヨウタンポポ



カンサイタンポポ



きのご園に立ち寄る



害獣の侵入を防ぐ柵



山道に行く



尾根でひと休み



西山地区の風景



ミヤマシキミの円錐花序
雌雄異株・葉も実も有毒



ミヤマシキミの核果
ミカン科



小塩山の淳和(じゅんな)天皇陵



歴史解説もありました

淳和天皇 (在位 823-833)

- ・平安時代初期の第53代天皇
- ・桓武天皇の第七皇子 大伴親王
- ・兄は平城天皇・嵯峨天皇
- ・淳和天皇は賢明で控えめな性格
- ・藤原北家の藤原良房が勢力を増してきた時代でもあった。火葬。

★ 小塩山 Nの谷、灰の谷



カタクリはユリ科の多年草



花被片は後方に反り返る

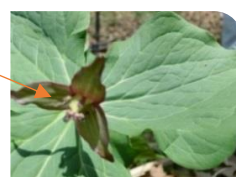


葉の表に紫色の斑紋



エンレイソウ ユリ科

花弁は無く
ガク片は
3枚
3枚の葉が
輪生する



エンレイソウの花



「西山保護ネットワーク」
吉野氏、中川氏の案内で



ヤマルリソウ
ムラサキ科



群生するニンキンソウ
キンポウゲ科



カタクリとミヤマカタバミ



ミヤマカタバミ
葉の角がやや出っ張り
花は白色で淡紫色の筋入り

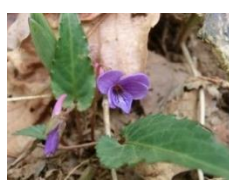


トキワイカリソウ 白花
メギ科

トキワイカリソウ
・葉は2回3出複葉
・長く突き出た
4本の距(キョ)
・距の中には
蜜を蓄える。



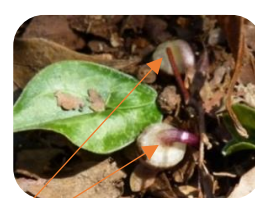
トキワイカリソウ 紅紫花



ノジスミレ
スミレ科



ニシキゴロモ
シソ科



ヒメカンアオイの蕾
ウマノスズクサ科

① カタクリはどんな植物？

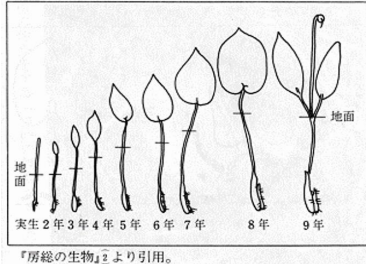
- ・ユリ科カタクリ属の多年草。比較的日光の差す**落葉広葉樹林**の林床に群生し早春に下を向いた薄紫から桃色の花を咲かせる。
- ・春を告げる「**スプリング・エフェメラル**」の一つ。葉には帯紫色の模様がある。
- ・早春の3～4月のみ地上部を展開し、5月上旬頃には葉や茎は枯れてしまう。
- ・種子にはアリが好む**エライオソーム**という物質が付いており、アリに種子を拾われ生育地を広げている（同様の例はスマレなどにも見られる）。

アリの種を運ぶので1km移動するのに1万年かかる。
カタクリが今の生息地で絶えれば、再生不可能。



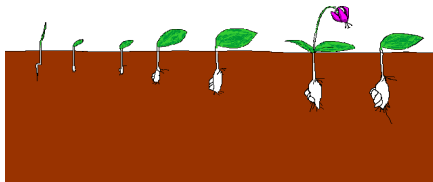
② 9年かかって開花

カタクリの実生から開花まで（鈴木由告原図）



発芽1年目の個体は細い糸状の葉を伸ばし、
2年目から7～8年程度までは、卵状楕円形の一枚の葉だけで過ごす。
鱗茎が大きくなり、**二枚目の葉が出てから花をつける**。
鱗茎は毎年更新し、なおかつ旧鱗茎の下に鱗茎が作られるため、鱗茎は深くなる。
原則として鱗茎は分球することはない。種子から花が咲くまで9年かかる。

3月初旬から葉を広げ、4月上旬に花をつけ、
5月上旬には種子ができる。
6月上旬には葉は枯れ、地下茎で翌春を待つ。



発芽1年目



発芽後数年



2枚目の葉が出たカタクリ、上はヒメカンアオイ

③ ギフチョウってどんな蝶

「**春の女神**」と呼ばれる美しい蝶。絶滅危惧種。
その土地のソメイヨシノの開花頃に羽化し、4月終りには
ミヤコアオイやヒメカンアオイ（幼虫の食草）の葉に卵を産み、姿を消す。
幼虫は夏秋冬は蛹で過ごす。蛹の期間は10ヶ月で、非常に長い。
カタクリ、スマレ、サクラ、ショウジョウバカマ、ツツジ等の蜜を吸う。



④ ギフチョウはなぜ減ってきたのか？

ギフチョウの生息する落葉広葉樹林は、薪炭林や堆肥用に利用されてきた森林である。
炭焼きは、ある谷を伐採すれば、次の年は隣の谷というように順次伐採する。
伐採したあと傍芽が育ち、十数年で元の森林に戻る。
ギフチョウはこのような森林を渡り歩く蝶だと言える。この森林が1960年代から大きく変貌した。

- 1 都市化やリゾート化で開発された。
- 2 石油燃料の時代に入って放置され、暗い森林が増えた。
- 3 スギ、ヒノキの植林地が増やされた。これらがギフチョウの生息地を奪ってきた。
- 4 温暖化の影響もあるのでは、とされている。



ギフチョウの幼虫

⑤ ヒメカンアオイ



ウマノスズクサ科 カンアオイ属
葉は2個で、卵形、長さ5～8cm。
花は2～3月に咲き、径1.5cm。
ギフチョウの食草として知られる。

近畿地方・中部地方に分布。
カンアオイ(寒葵)とは、常緑の多年草で、
葉が葵に似ていることから。



ヒメカンアオイ 花